

停電時の強い味方!
災害に備えるなら

LPガスポータブル発電機

自然災害で電気がストップ

近年、日本では大規模な自然災害が多発しており、電気、都市ガス、水道のライフラインがストップする事態も起こっています。

今年元旦に発生した「令和6年能登半島地震」では、被災地で停電が長期化し、解消されるまでに時間を要しました。電気だけでなく、水道も長期間使えなくなり、災害対策の新たな課題を浮き彫りにしました。

電気や水道等のインフラ途絶は、災害発生後の復旧作業や被災者の避難生活などに大きな影響を及ぼします。

常備した発電機が停電時に活躍

災害で停電した際に、実際に常備していたLPガスポータブル発電機を活用して、電気を使うことができた事例もあります。

全道が停電する事態に見舞われた2018年の北海道胆振東部地震をはじめ、非常用に備えていたLPガスポータブル発電機(写真)を稼働させることで、停電のときでも電源を確保できた事例は少なくありません。

こうしたことから、災害時の備えとしてLPガスポータ

ブル発電機を常備する施設が増えています。特に、入居者の命を預かる介護福祉施設や、地域の避難所に指定された民間施設などで、手軽に使える電源として選ばれています。

家庭のLPガスで電気をつくる

LPガスポータブル発電機は、災害で電気、都市ガス、水道のライフラインが寸断したときに、とても頼りになります。

家庭や職場で使っているLPガスを燃料として、簡単に電気をつくるので、予期せぬ停電が発生しても、照明、携帯電話やスマートフォンの充電、調理器具、暖房機器などをいつも通りに使えます。ガス機器の電源にもなるので、給湯器を作動させて、お湯を使うことができます。

また、断水が長期化しても、発電機を使って井戸やプールなどの水を汲み上げるポンプを動かすことで、生活に使う水を確保できる場合もあります。これにより、災害時に水道が使えなくなったときの洗濯やシャワー、トイレなどの心配が軽減されることもあります。



災害時も安心の長時間運転

小型で軽量なLPガスポータブル発電機は、誰でも持ち運びが簡単で、保管場所にも困りません。

停電が長期化しても、容器に備蓄したLPガスを燃料に使うので、長時間運転が可能です。災害発生後は、生存のために3日間(72時間)を乗り切ることが重要ですが、LPガスポータブル発電機があれば安心です。

家庭はもちろん、職場や公共施設、避難所などで、万が一の災害対策として備えておきたいです。

LPガス
人と地球にスマイルを

日本LPガス団体協議会

